

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《雨水対策事業》				担当部	都市建設部			
	会計区分	一般会計		事業類型	施設整備系		担当課	河川課		
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	河川係		
	総合計画 新基本計画	施策等	6 都市基盤		26 河川・水路		2 河川への雨水流出を抑制します			
			重点事業		実施計画事業	○				
	予算区分	款	8	項	3	目	3	大	3	中
	根拠法令・個別計画	特定都市河川浸水被害対策法、新川流域水害対策計画								
	目的	何・誰を対象に	浸水被害地区							
		どの様な状態にするのか	河川改修には長い年月が必要であるため、総合治水の視点から、雨水を下流に排除するだけでなく、その場に貯めることで流出の抑制をし、浸水被害を軽減する。							
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>◆27年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度から27年度で早苗公園に雨水貯留施設を設置するための工事を実施。 ・双葉公園に雨水貯留施設を設置するための測量設計委託を実施。 ・小牧市西部地区の浸水被害常習地域について、雨水対策基本計画を策定。 <p>◆27年度直接経費の内訳</p> <p>【工事請負】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早苗公園雨水貯留施設整備事業 1件 地下貯留施設 1,519m3 (工事費:13,139千円) <p>【財源内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備総合交付金(補助率1/3) 840千円 <p>【委託業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水貯留施設測量業務 双葉公園(委託料:6,372千円) ・西部地区雨水対策基本計画策定業務(委託料:6,966千円) <p>◆28年度直接経費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水貯留施設測量業務 双葉公園(工事費:123,000千円 物件移転補償費:1,000千円) <p>【財源内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備総合交付金(補助率1/3) 29,400千円 ・流域貯留浸透施設事業債 52,900千円 <p>※雨水対策事業のうち、雨水貯留施設設置助成事業、浸水防止塀設置助成事業を除く</p>								
受益者負担	無									

			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額	
	コスト	費用	直接経費		千円	64,175	100,416	26,477
正職員			従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,650	1,650	1,650	1,650
その他職員			従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
費用合計			千円	65,825	102,066	28,127	125,650	
対前年比		%		155.0	27.5	446.7		
財源	一般財源		千円	17,025	45,706	27,287	43,350	
	国・県支出金		千円	48,800	20,160	840	29,400	
	その他財源		千円	0	36,200	0	52,900	

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	施設設置件数	件	目標	2	0	1
実績				2	0	1	
			目標				
			実績				
成果指標名	単位			H25	H26	H27	H28
			雨水貯留量	m ³	目標	780	530
公共施設の総雨水貯留量	m ³	目標	8,600	9,137	10,656	11,782	
		実績	8,607	9,138	10,657		

事業の自己評価	平成27年度の達成状況	平成27年度早期に早苗公園に雨水貯留施設を設置するための工事は完了した。また、浸水被害軽減を目的とした双葉公園に雨水貯留施設を設置するための測量設計および西部地区雨水対策基本計画策定業務についても計画通り完了した。小牧市が行なう流域対策必要量19,500m ³ に対し、平成27年度末で10,657m ³ が確保できた。	
	事業実施における課題	公園内に貯留施設を設置する場合、施工期間中の利用が出来なくなるため、利用者への十分な周知が必要となる。西部地区の雨水対策については、対策エリアが広いことから、複数の対策が必要で有り、効果を発揮するまでには相当の時間を要する。	
	基本施策の展開方向の目的に対する影響(貢献等)	早苗公園に1,519m ³ の貯留施設を設置したことは、広域的な河川への雨水流出の抑制につながるため、河川氾濫の防止に効果があると考えられる。	
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	
平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	新川流域総合治水対策協議会において、流域水害対策計画の計画期間(特定都市河川浸水被害対策法施行(H18)から概ね30年)までに小牧市(河川・下水道管理者除く)が行なう流域対策必要量は19,500m ³ となっている。平成27年度末の進捗率は、54.7%(10,657m ³)であり、事業を継続する必要がある。	
	29年度以降の改善案	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に設置した2箇所の貯留施設については、降雨状況によるが、その後周辺部への浸水被害が見られないこと、また周辺住民からの聞き取りからも対策効果が発揮されていると考える。他の施設も含め、引き続き効果を検証していく。 平成28年度より事業進捗スピードが半減したことによる雨水流出抑制対策へ影響は否めない。過去の浸水被害状況を精査し、緊急性や整備効果などから整備順位を見直す必要がある。 	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。